

令和八年度学力検査

A  
国

語

(九時三十分～十時十五分、四十五分間)

問題用紙

注意

- 一、「開始」の合図あいずがあるまで開いてはいけません。
- 二、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 三、問題は、**1** から **5** までで、六ページにわたって印刷してあります。  
なお、問題用紙のほかに別紙があり、表に別紙1、裏に別紙2が印刷されています。
- 四、「開始」の合図で、解答用紙の決められた欄らんに受検番号を書きなさい。
- 五、問題を読むとき、声を出してはいけません。
- 六、「終了」しゅうりょうの合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。

1

次の①～⑧の文の傍線部分について、漢字は読みをひらがなで書き、ひらがなは漢字に直しなさい。(八点)

- ① 友人の声援に励まされる。
- ② 研究に十年を費やす。
- ③ 車窓から景色を眺める。
- ④ 登山家が峡谷を下る。
- ⑤ 髪を一つにたばねる。
- ⑥ 蛇口から水がたれる。
- ⑦ 布団をあつしゆくして収納する。
- ⑧ 委員長としてのせきむを果たす。

2

別紙1の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十二点)

- (一) 傍線部分(1)「海斗には最高のごちそうだった」とあるが、この部分は、いくつの単語に分けられるか。次のア～エから最も適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、五      イ、六      ウ、七      エ、八

- (二) 傍線部分(2)「音楽って万能の薬みたいだ」で使われている表現技法として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、直喩      イ、隠喩      ウ、擬人法      エ、倒置

- (三) 傍線部分(3)「海斗くんはきつとそれを本能的にわかっているはずだよ」とあるが、青柳が考える、海斗が本能的にわかっているはずのことはどのようなことか。「……ということ。」につながるように、本文中から二十五字以上三十五字以内で抜き出して書きなさい。(句読点も一字に数える。)

- (四) 傍線部分(4)「そうだ、そのうち海斗くんと花音、二人で演奏したらどうだい」とあるが、青柳の提案に対する海斗と花音の様子として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、ほとんど同時に好意的な反応をした二人だが、海斗は花音の足を引っぱることを気にして乗り気になれずにいる。  
 イ、二人での演奏に花音は前向きな感情を表しており、海斗は不安を抱きつつもわずかな期待を感じている。  
 ウ、青柳と盛りあがっていた花音は、人と合わせて弾くことに自信を持ってない海斗の様子にあっけにとられている。  
 エ、失敗してみじめな自分を想像し身震いする海斗について、花音は不安を感じつつも青柳と背中をおしている。

- (五) 傍線部分(5)「おれも……その、ありがとう」とあるが、海斗が花音に感謝しているのはなぜか。「……から。」につながるように、本文中の言葉を使って三十字以上四十字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

別紙2の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十二点)

- (一) 傍線部分①「動物が鏡に映る自分の姿を見て自分だとわかるのは、どうすれば示せるだろう」とあるが、次の  の中は、チンパンジーが鏡に映る姿を見て自分だと認識していることは、どのような場合に示せるかについて、まとめたものである。  に入る言葉を、本文中から十字以上十五字以内で抜き出して書きなさい。(句読点も一字に数える。)

鏡を見てはじめて額に印があることに気付いたチンパンジーが、

場合、鏡に映る姿を自分だと認識していることを示すことができる。

- (二) 傍線部分②「潜り」は動詞であるが、波線部分①～④の動詞のうち、活用の種類が「潜り」と同じものを一つ選び、その番号を書きなさい。

- (三) 傍線部分③「素早く」の品詞として最も適当なものを、次のア～オから一つ選び、その記号を書きなさい。

{ ア、動詞    イ、形容詞    ウ、形容動詞    エ、連体詞    オ、副詞 }

- (四) 次の  で囲まれた文は、本文中の  A  から一つ選び、その記号を書きなさい。

印が痒いとか痛いといった刺激で擦る可能性も残っているからだ。

- (五) 傍線部分④「意味のある印を使った実験」とあるが、ホンソメの実験においてどのような印を使ったのか。ホンソメの性質にふれて、「……を使った。」につながるように、本文中の言葉を使って三十五字以上四十五字以内で書きなさい。(句読点も一字に数える。)

次のⅠは漢文の訓読文と書き下し文、Ⅱは古文である。ⅠとⅡの文章と、【話し合いの様子】を読んで、あとの各問いに答えなさい。(十占)

## 【訓読文】

Ⅰ 君子曰、「学不可以已。青取之於藍、而青於藍、冰水為之、而寒於水。」

【書き下し文】  
君子曰く、「学は以て已むべからず。青は之を藍より取りて、藍よりも青く、氷は水之を為して、水よりも寒し。」と。  
藍の草  
青は之を藍より取りて、  
青く、  
氷は水之を為して、  
水よりも寒し。

\* 一部表記を改めたところがある。

Ⅱ 師の説なりとて、かならずなづみまもるべきにもあらず。よきあしきをいはず、ひたぶるにふるきをまもるは学問の道には

つまらないこと  
いふかひなきわざなり。

吾にしたがひて物まなほむともがらも、わが後に、又よき考へのできたらむには、かならずわが説にななづみぞ。

わがあしき故をいひて、よき考へをひろめよ。すべておのが人ををしふるは、道をあきらかにせむとなれば、

かにもかくにも道をあきらかにせむぞ、吾を用ふるには有りける。道を思はでいたづらにわれをたふとまんは、

わが心にあらざるぞかし。

\* 一部表記を改めたところがある。  
\* 一部省略したところがある。

## 【話し合いの様子】

あおいさん

Ⅰの文章について調べてみると、「出藍」という言葉の由来となった文章だとされていることがわかったよ。「出藍」は「すぐれた能力を持つ師匠よりも、さらにすぐれた業績を弟子があげること」という意味を現在は持つようだね。中国の思想家の荀子は、師匠と

弟子の関係について例えを用いながら、学問を継続することの大切さを説いていると考えられるね。

みどりさん

そういうことなんだね。それなら、Iの文中の

①と②

は、弟子を例えた表現だと解釈できるね。

あおいさん

その通りだと思うよ。さらに、Iの文章について調べている中で、IIの文章を見つけたよ。IIの文章は本居宣長が自らの考えを述べている作品の一部で、「出藍」という言葉と関連づけて読むことができると思うよ。

みどりさん

本当だね。弟子に対して、学問をする中で良い考えが出てきた場合にとるべき行動について、具体的に指示しているよ。これは本居宣長が、自分の弟子に「出藍」を期待しているからではないかな。

(一) 傍線部分(1)「学 不 可 以 已」が、「学は以て已むべからず」と読むことができるように返り点をつけたものとして最も適当なものを、次のア、

工から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、学 不 可 以 已    イ、学 不 可 以 已    ウ、学 不 可 以 已    エ、学 不 可 以 已

(二) 傍線部分(2)「をしふる」を現代仮名遣いに改め、すべてひらがなで書きなさい。

(三) 【話し合いの様子】の ①、② に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、①ー青    ②ー氷    イ、①ー青    ②ー水    ウ、①ー藍    ②ー氷    エ、①ー藍    ②ー水

(四) 傍線部分(3)「良い考えが出てきた場合」とあるが、この場合に弟子がとるべき行動について具体的に指示している一文を、IIの文章中の古文から抜き出し、最初の五字を書きなさい。(句読点も一字に数える。)

(五) IIの文章について、作者である本居宣長の考えとして適当でないものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、師匠の説だからといって、こだわってまもらなければならないわけではない。

イ、ただ一筋に古い説をまもることは、学問の道ではつまらないことである。

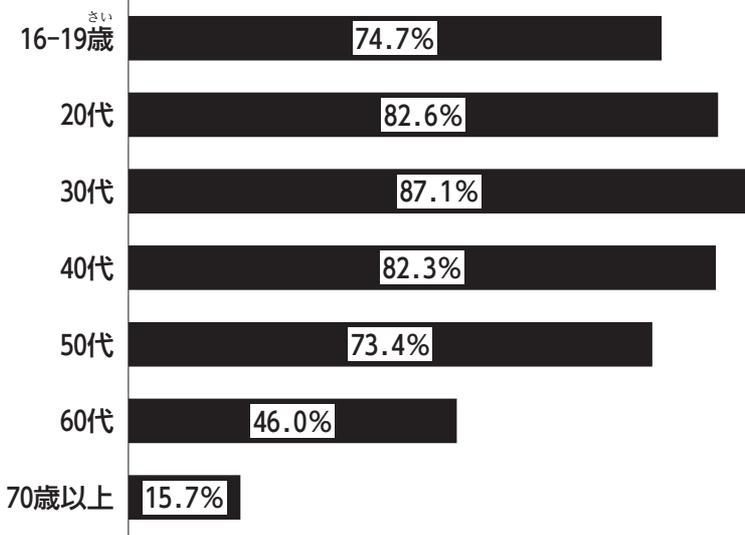
ウ、私が入々に学問を教えるのは、道をあきらかにしようとするためである。

エ、弟子が私を尊敬することよりも道を大切に思うことは、私の本心ではない。

(次のページへ) ←

次の【資料1】、【資料2】、【資料3】、【資料4】は、国語の授業で「言葉の変化」について学習する中で、あやかさんの班が用いた資料の一部であり、【話し合いの様子】は、その際に話し合ったときのものである。これらを読んで、あとの各問いに答えなさい。(八点)

【資料2】 「時間や手間をかけずに終わらせる」といった新しい意味で「さくっと終わらせる」をつかうことがある



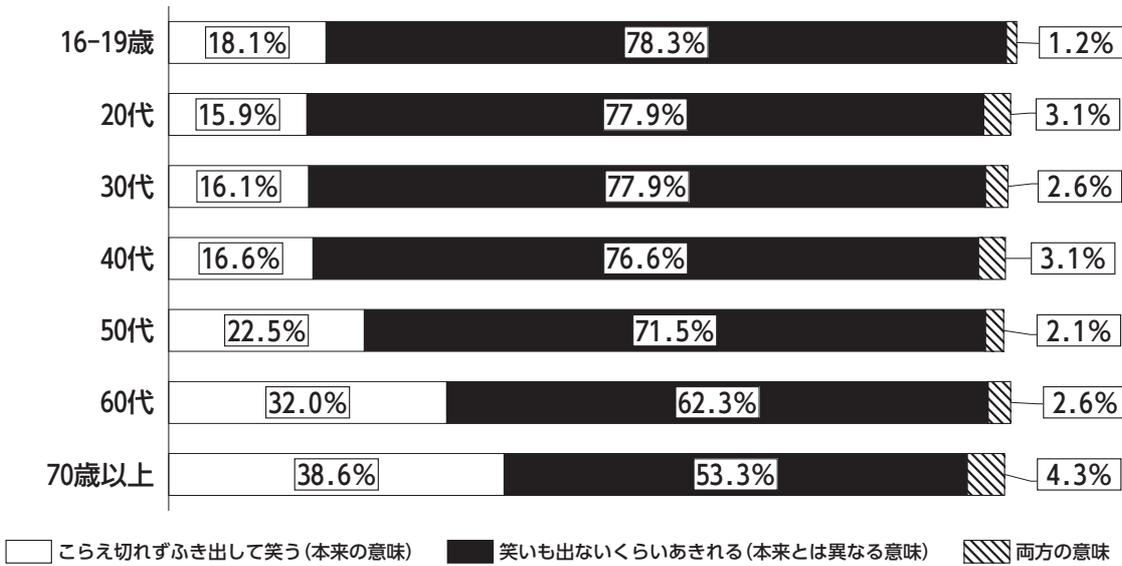
【文化庁「国語に関する世論調査」(令和5年度)から作成】

【資料1】「ある辞書での「さくっと」の意味

① 微妙な堅さがあるものをあまり手応えを感じずに切ったり砕いたりするときの音。またそのさま。  
 (用例) ウエハースを一口さくっとかじる

② 「新」本来手間のかかるものを手際よく仕上げた  
 しまっさま。  
 (用例) 宿題はさくっとやってしまった

【資料3】 「失笑する」はどちらの意味だと思うか



【文化庁「国語に関する世論調査」(令和5年度)から作成】

【資料4】 ふだん、言葉のつかい方について、どのように気をつけているか

- ・改まった場で、ふさわしい言葉づかいをする
- ・年齢が離れた人に意味が通じるように発言する
- ・自分と違う意見や考え方を見聞きしても、感情的に反応しない
- ・流行語や新しい言葉をつかい過ぎない
- ・日本語を母語としない人と適切に意思疎通を図る

【文化庁「国語に関する世論調査」(令和4年度)から作成】

【話し合いの様子】

あやかさん

【資料1】、【資料2】からは、「さくつ」という言葉が、本来の意味だけでなく、本来とは異なる新たな意味で使用されている様子がわかるよ。使用の状況は年代によって違いがあるね。

りくとさん

本当だね。さらに【資料3】は、「失笑する」という言葉について、本来の意味と、本来とは異なる意味のどちらで理解しているかの状況がわかるね。年代によって違いがあるけれど、どの年代でも本来とは異なる意味で理解している割合が大きいのことがわかるね。

しおりさん

そうだね。私たちは今回学習した言葉の変化の状況を受け入れつつ、言葉をつかってコミュニケーションをとるうえで、どのようなことに気をつけたらいいかな。

あやかさん

そのことについては、【資料4】を参考にするといいと思うよ。

(一)

【資料2】、【資料3】から読み取れることについて、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア、【資料2】を見ると、「時間や手間をかけずに終わらせる」といった意味で「さくつと終わらせる」をつかうことがあると回答した人の割合は三十代が最も大きく、次いで四十代が大きくなっており、いずれも八割より大きい。

イ、【資料3】を見ると、「失笑する」の意味について「こらえ切れずふき出して笑う」を選択した人の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、六十代と七十代以上では三割を超えている。

ウ、【資料3】を見ると、「失笑する」の意味について「笑いも出ないくらいあきれ」を選択した人の割合は、すべての年代で他の選択をした人の割合より大きく、十六～十九歳では八割に達している。

エ、【資料3】を見ると、「失笑する」の意味について「こらえ切れずふき出して笑う」、「笑いも出ないくらいあきれ」の「両方の意味」を選択した人の割合は、すべての年代で一割未満である。

(二)

言葉をつかってコミュニケーションをとるうえで、あなたはどのようなことに気をつけたかと考えるか。あなたの考えを、次の「作文の注意」にしたがって書きなさい。

【作文の注意】

- ① 題名は書かずに本文から書き出しなさい。
- ② 言葉をつかってコミュニケーションをとるうえで気をつけたいことについて、【資料4】から一つ取り上げて書き、それを取り上げた理由について【資料1】、【資料2】、【資料3】から一つもしくは複数ふまえて、あなたの考えを書きなさい。
- ③ あなたの考えが的確に伝わるように書きなさい。
- ④ 原稿用紙のつかい方にしたがって、全体を百六十字以上二百字以内にまとめなさい。